

授業科目名称：実務実習（病院・薬局）

授業コード：04529

授業科目英文名称：Pharmacy Practice Experience (Hospital and Community)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	5	20	必修
担当教員			
大磯 茂、室 高広、神田 紘介、大久保 伸哉、末廣 真理恵、中島 健輔、兼任			
展開方法	実習		
ナンバリング	N4F501		
添付ファイル			
R7_N4F501_実務実習（病院・薬局）（大磯 他）.pdf			

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	薬の専門家として高度化・複雑化する社会の医療ニーズに対応するために必要な知識を修得する。	実習施設の総括評価 実務実習記録の評価	20% 20%
情報収集、分析力	医療や薬学に関する諸問題について、有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる技能を修得する。	実習施設の総括評価 実務実習記録の評価	10% 10%
コミュニケーション力	薬の専門家として十分なコミュニケーション能力を修得する。	実習施設の総括評価 実務実習記録の評価 実習中の態度評価	5% 5% 10%
協働・課題解決力	個々の患者や医師・看護師等に薬の情報を的確に提供することができる能力を修得する。	実習施設の総括評価 実務実習記録の評価	5% 5%
多様性理解力	地域医療・保健に参画することができる能力を修得する。	実習施設の総括評価 実務実習記録の評価	5% 5%
出席		受験要件	
合計		100%	

授業のねらい	薬局および病院における参加型実習を通し、本学薬学部薬学科のディプロマポリシーである、薬の専門家として高度化・複雑化する社会の医療ニーズに対応するために必要な知識、医療や薬学に関する諸問題について、有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる技能、薬の専門家として十分なコミュニケーション能力、個々の患者や医師・看護師等に薬の情報を的確に提供することができる能力、地域医療・保健に参画することができる能力を備えることを目標とする。
アクティブラーニングの種類	①④⑥⑦⑪⑫
評価基準及び評価手段・方法の補足説明	実習施設の総括評価は指導薬剤師の終了時評価から、実務実習記録の評価は実習生の担当教員の評価表から換算する。実習中の態度評価は指導薬剤師および担当教員の態度評価から換算する。無断欠席、実習態度不良、誓約書内容遵守違反など実習に支障をきたすような行為が認められた場合、実習中止を検討する。
授業概要	保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談、医療機関や地域との関わりなどの薬局薬剤師業務ならびに調剤および製剤、薬剤管理指導業務、医薬品管理などの病院薬剤師業務に関する臨床実習を行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。
教科書・参考書・指定図書	参考書：治療薬マニュアル（医学書院） スタンダード薬学シリーズⅡ 7臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤（東京化学同人）：参考書① スタンダード薬学シリーズⅡ 7臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践（東京化学同人）：参考書② スタンダード薬学シリーズⅡ 7臨床薬学Ⅲ チーム医療及び地域の保健・医療・福祉への参画（東京化学同人）：参考書③ 薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト2024 じほう：参考書④ 薬局実務実習指導の手引き2018年版：参考書⑤ 実務実習事前学習テキストブック（京都廣川書店）参考書⑥ グラフィックガイド薬剤師の技能 理論まるごと実践へ 第2版（京都廣川書店）参考書⑦ 指定図書：治療薬マニュアル（医学書院）
授業外における学修及び学生に期待すること	卒業後、医療チームに参画できるように、医療倫理観および基本的な臨床技能と態度を身につけて欲しい。 また、実務実習施設の規則も遵守し、特に下記の点に注意して欲しい。 1）周囲への配慮、2）緊張感、3）感謝の気持ち・素直な態度、4）、礼儀、5）積極性

授業計画	回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標 番号	担当教員
			添付ファイル参照			